

平成30年11月7日

～地域交流の一環として～

### 友好都市 長野県小布施町の小学生がすみだの伝統工芸を体験！

本日、友好都市である長野県小布施町の栗ガ丘小学校6年の児童114名が、修学旅行で墨田区を訪れ、伝統工芸を体験した。これは、地域間交流の一環で行っているもので、これまでも墨田区と小布施町は、北斎を通じた縁で、物産展や農作業体験など様々な交流事業を行っている。今回、児童たちは、9つのグループに分かれて墨田区伝統工芸保存会に所属する職人を訪れ、木目込人形作りや藍染体験、江戸切子の制作などを行った。

午後2時40分、12名の児童は安宅漆工店(向島3-38-10 代表:安宅 信太郎)を訪問。初めに、“漆工”職人の安宅 信太郎氏から、漆の歴史や漆の漆工の際に使う道具の説明について教わった。その後、児童たちは平面のお皿に蒔絵を描く体験をした。初めに、事前に下書きした花びらや動物の下絵をお皿に書き写し、その後職人からコツを聞きながら金箔を下絵にまぶした。児童たちは初めて見る作業工程に感心した様子だった。最後に金箔をきれいにふき取る作業を体験し、午後4時30分に終了。蒔絵体験をした男子児童は「初めて体験する作業ばかりで大変だったけど、完成品を見たときに達成感があった」とうれしそうに話していた。



<墨田区と小布施町の交流について>

墨田区では、平成8年、長野県小布施町と友好協定を締結し、それぞれの都市が持つ特性を活かして、文化・教育・スポーツ・防災等幅広い分野で交流を行っている。小布施町（平成8年5月締結）は、葛飾北斎ゆかりの地という共通点を持っている。平成18年には、小布施町にある北斎館開館30周年と、北斎を小布施に招いた地元の豪商、高井鴻山の生誕200年を記念した「小布施六斎市」の開催の際には墨田区伝統工芸保存会を招いて、匠の技を披露してもらった。

<墨田区伝統工芸保存会について>

本作品展を主催した、墨田区伝統工芸保存会は昭和53年（1978年）に、都内でいち早く「物作りは文化である」と考える異業種の工芸職人13名が集まり、伝統職人技術の保存、発展、認識向上を目的に発足した。会員は伝統の『技』を磨き上げながら、現代の感性を取り入れ「すみだらしさ」をモットーに新たな職人像を目指している。「産業観光プラザ すみだ まち処」では、職人による実演コーナーを設け、職人が墨田の魅力を伝えようと、年中無休で伝統工芸品の実演販売を行っている。